



## Necco 当事者研究会報

「Necco 当事者研究会」は  
2011年8月—2015年8月  
の4年間の名称です。

日時：2011年 10月 19日 15時～17時 10月屋の部

場所：Alternative Space Necco 2階（東京都新宿区西早稲田2-18-21 羽柴ビル202 TEL/FAX:03-6233-7456）

参加者：19名（あやや；きゅうざき；えつ；つぐ；杉坂現象；めい；まよこママ；いけだ；hana；あっこ；美也；ウーパールーパー；  
やぶち；めじろ；のず；あきお；他3名）

### テーマ：ノリに乗れない

テーマミーティングではなく綾屋の個人発表でした。「なぜ集団の作り出す楽しそうな会話についていけないのか」という綾屋が抱えてきた問いに対して、「綾屋の場合、多くの人と比べて、意味や行動をまとめあげるスピードに差があるから」という仮説が語られました。

#### 【仮説】まとめあげスピードの差

#### 【観察】空気＝関係性？

##### 【「ノリに乗れない」とはどんな感じか】

- ★楽しそうな会話を聞いていても楽しさが伝わらない。
- ★ひとつひとつのセリフや表情はたくさん聞こえるし目にも止まるが、全体の流れがわからない。
- ★休み時間の教室内に飛び交う会話が、まるで速くて意味もルールもわからないたくさんのボールを投げ合っているかのように感じる。

- 【実験】これまで「なぜ自分がノリに乗れないのか」がわからなかったため、「楽しさを感じられず、ノリに乗れない自分」を責めてきた。  
⇒「人よりも情報を細かく大量にとってしまう」という自分の特性の仮説がたったので、乗れない自分を責めるのをやめて、観察してみることにした。

##### 【仮説】まとめあげスピードの差

意味や行動の選択肢が少ない人や「適当」ができる人同士だと、言葉が少なくても共通理解やルールがパツとまとめあがる。

意味や行動の選択肢が多い人や、「適当」ができない人同士だと、共通理解を得るまでに、たくさんの言葉をすりあわせる時間が必要。

⇒まとめあげるスピードの差によって  
多くの人を作るノリの空間からはぐれる

##### 【当事者研究を始めてからの変化】

- ・言葉を大事にする人
  - ・言葉を扱う仕事をしている人
  - ・その分野の専門知識が豊富なので、細かく言葉を使わずにはいられない人
- などと話すときは、楽しい気分を味わえることが分かってきた。
- ⇒共通の背景や理解を持っていることや言葉の細かさが同じくらいであることが楽しさには必要かもしれないと思うようになった。

⇒今だったら、私が誰かと話ができている状況を他人が見たら、「あの人はノリに乗れている」と思うこともあるかもしれない。



【結果】速いノリに乗れず、話の内容や楽しさがわからなくても、その場にいる人々の関係性がわかっていたら、「なぜ自分がその場のノリに乗れないのか」は推測できるので、不安にならずに済んだ。

不安になるとますます「寄って」、部分を見てしまい、全体の流れがわからなくなってしまいが、**関係性がどう動いているかに注目し続けていると自分を「引き」の状態にキープしてくれる気がする。**